



二重ケーシングパイプの性能について説明される牧野氏

〈次 第〉

◆演題『FRPM ケーシングパイプ・揚水管・二重ケーシング用について』
講師：栗本化成工業㈱ 技術部技術一課 課員 牧野友宣氏

◆演題『高分子凝集材とその用途について』
講師：東亜合成㈱ 竹田 健 氏

平成14年10月25日(金)午後1時30分より富山流通会館において技術講習会を開催し、会員、現場管理者、作業主任、関係企業など15名の参加がありました。

栗本化成工業㈱の牧野氏より、二重ケーシングパイプの性能、高強度のガラス繊維をフィラメントワインディング法により円周方向及び軸方向に配置し熱硬化性不飽和ポリエステル樹脂で硬化したもの①継手部の突起がない②優れた耐食性③容易な接合④軽量(鋼の4分の1)等が説明されました。

東亜合成㈱の竹田氏より懸濁物の濃縮・脱水並びに排水の沈降・浮上をすする為に用いる有機高分子凝集材(カチオン系、アニオン系、ノニオン系)について説明がありました。

Ecoフレンド

Vol.5

【発行】平成14年11月
富山県鑿井協会

URL: <http://www.atw.ne.jp/~tomisaku/>
E-mail: tomisaku@atw.ne.jp

〒930-0902 富山県新庄町一丁目十九番二号
☎(076)441-4257
Fax (076)441-4287

水にまつわるいい話

屋上緑化ビジネスとグランドフォスのソラトロニクス

グランドフォスポンプ㈱東支店北信越営業所 所長 小玉 隆文 氏

「地球温暖化」という言葉がさかんに使われるようになったのはもうそれほど新しい事でもありません。地球の温度が上がっていることは、この地上で暮らしているだけでも、なんとなく何年前の夏より今年の夏の方が暑いと感じる事で認識されます。都市の高温化は地球全体のその4倍と言われ、これはまさに、人間の生活、活動が地球を高温化させているということに他なりません。アスファルトの道路は太陽の光を照り返し、気温を上昇させるのです。近年屋上緑化が都市高温化防止効果をもたらすとされ注目されています。道路と同様に照り返しによって温度を上昇させていたコンクリートの屋上に緑を敷き詰める事で照り返しを防ぎ、温度上昇を抑制します。また、照り返しの防止だけでなく、植えられた植物が光合成をし、水蒸気を放出する事で温度調節が行われます。このように、屋上の温度上昇を抑制する事により、建物内の冷房ピーク時における負荷が低減しますので、省エネ効果も期待できます。屋上緑化は、このようなヒートアイランド現象を緩和する目的で注目されているのにとどまらず、その他のいろいろな点でも期待が高まっています。景観の点でも、人々の心の癒しを与える目的で、病院や老人ホーム、学校などに設置されています。また、屋上緑化は、都市化とともに消失しつつある、生物生息空間(ビオトープと呼ばれる)を取り戻すという大きな役割も兼ねています。

このような理由から、屋上に地上さながらの日本庭園を作るサービスをする大手企業が増えています。企業に限らず、地方自治体でも屋上緑化を研究・推進しています。東京都では、2001年4月自然保護条例によって、民間施設においては1000平方メートル以上、公共施設においては、250平方メートル以上の敷地に建築物を新築などする場合は、敷地及び建物の屋上などの緑化を義務付けました。また今年3月続いて神戸市も同様な条例を施行し、更に様々な企業が参入する事となりました。

京都市伏見区に昨年オープンした特別擁護老人ホーム「淀南福祉館」の屋上には、広さ500平方メートルあまりの日本庭園が作られています。松やカエデの植え込みに加えて水中昆虫などが住める人工の池もあります。グランドフォスのソラトロニクスはこの人工池の中に設置され、自然な水の流れ「せせらぎ」を作り出し、この緑化ビジネスに大きく貢献しています。ソーラーパワーで稼動するソラトロニクスは環境に優しく、まさに屋上緑化の目的に合った製品といえるでしょう。

グランドフォス、ソラトロニクスに関しましては、各営業所にお気軽にお問い合わせ下さい。



写真提供：読売新聞

「ミネラルウォーター」について

富山県鑿井協会員 M氏

今さら言うまでもありませんが、富山県は熊本県と並んで名水100選に4ヶ所も選ばれている、日本でも有数の水環境のよい県です。ですが、いつでも名水を口にすると言うことは、なかなか叶わないのではないのでしょうか？

そこで、最近大変種類も多くなってきた「ミネラルウォーター」(厳密には採取した水に施される処理方法により数種類に分けられる様ですが...)について少し調べてみたところ、富山県で採水されている「地下水(?)」は20種類以上も販売されています。販売者は大手飲料メーカーから製薬会社、地元企業と様々で、コンビニ等で簡単に手に入る物から極限られた地域でしか手に入らないような物まであるようです。インターネットで検索してみるといろいろなミネラルウォーターが簡単に見つける事が出来るので、それらを飲み比べてみるのも面白いかもしれません。

ところでミネラルウォーターを区分する上で「軟水」、「硬水」とよく言われますが、これは何を表しているのでしょうか？ これらを決めるのは「硬度」です。硬度とは水のなかに含まれるカルシウムとマグネシウムの合計量を数値化したもので、この数値が高いものを硬水、低いものを軟水と呼びます。わかりやすく言えば、カルシウムとマグネシウムがたくさん入っている水が硬水、少ない水が軟水ということ。硬度は(カルシウム量×2.5)+(マグネシウム量×4.1)で求めることが出来ます。厳密には硬度0から178未満を「軟水」、178以上357未満を「中間の水」、357以上を「硬水」と分類しているようですが、近年では便宜的に、硬度が100未満のものを軟水、それ以上を硬水と呼ぶようになっているようです。

硬度100未満の軟水は、炊飯や和風だしをとるなど日本料理全般、そして緑茶をいれたりするのに適しています。硬度100~300の中硬水は、洋風だしをとったり、煮物や鍋物をするのに向いています。そして硬度300以上の硬水は、スポーツ後のミネラル補給や妊産婦のカルシウム補給、そして便秘解消やダイエットにも役立ちます。しかし富山で採水されているミネラルウォーターは硬度100以下の「軟水」が多いようです。「おいしい洋風料理を作りたい」、「ダイエットをしたい」と思うなら、ぜひミネラルを多く含んだ硬水を探してみてください。

2003年『井戸の日』開催のご案内

当協会では2003年の『井戸の日』に向け、『井戸の日』実行委員会を立ち上げ、事業を検討しております。

2003年度は、『水の王国とやま—とやま水物語—』をテーマとして、「地下水の大切さ」をコンセプトに「水」という共通点で、各界より講師を招いての記念講演会を行い、ボランティア事業(公共施設の消・融雪設備の点検)、広報PR事業並びにコンサルティング事業、井戸110番の開設を計画しております。

皆様には『井戸の日』の事業にご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※詳細につきましては後日、ご案内申し上げます。

第5回 TSAG 杯開催

平成14年11月8日(金)に富山県鑿井協会第5回 TSAG 杯を太閤山カントリークラブにて開催し、会員間の親睦を図りました。

優勝：雄基工業㈱ 南林 辰夫氏

編集後記
県人初のノーベル化学賞受賞が決まった田中耕一氏は受賞の要因を県人の『粘り強さ』と話しておられ、県民にも業界にも夢と希望と自信を与えてくれました。私たちがこの精神を受け継いだ県人の一人として『地下水』未来のため、貢献していきたいと思えます。
-総務部会-

私が出会った自然

秋の気配に誘われ踏み入れた山地で静かに顔をのぞかせた富山の珍獣「カモシカ(国の天然記念物)」。一瞬ピンと張つめた空気がやがて心地よい緊張感へと変わり、何故か得した気持ちにさせてくれました。

魚津市松倉地内

*環境にやさしい再生紙を使用しております。